

## ウィーン体制の崩壊

☆ナポレオンの大陸制覇によって各地にばらまかれた（ ）  
（ ）がウィーン体制を崩壊に導いていく。

### ①ウィーン体制への反動（1820年代）

・（ ）

ドイツのイエナ大学を中心とする学生団体

ドイツ統一を求める運動

→メッテルニヒは（ ）で弾圧を決議

・（ ）

イタリア独立（教皇による統一）を目指す秘密結社

（ ）（ ）で相次いで革命を起こす

→オーストリアの弾圧

・（ ）

リエーゴを指導者として、自由主義的改革を求める革命

→フランス軍の鎮圧

・（ ）

ロシア皇帝（ ）の即位に際して自由主義思想を抱く将校達が反乱

→皇帝による鎮圧

・ラテンアメリカの独立運動

各国はこれを弾圧しようとするが、米英はこれを黙認

→1822 イギリスが五国同盟脱退。

・ギリシア独立戦争

→ギリシア独立を英仏露が支援…正統主義の動揺

1829（ ）条約で独立承認

②（ ）

仏王（ ）に続く（ ）は極端王党派であった。

数々の反動政策、首相ポリニャック

不満をそらすための（ ）→以降二次大戦後まで植民地

1830 反政府側が選挙で勝利

→国王が七月勅令を發布、議会解散

→パリ民衆蜂起、国王の亡命＝七月革命

七月王政の開始

（ ）の（ ）が即位

銀行家、大資本家の権力独占状態

産業革命の進展＝労働者の台頭＝社会主義の発展

・七月革命の影響

（ ）独立、（ ）反乱、（ ）蜂起

イギリスの第一回選挙法改正

Cf)

ナヴァリノ海戦

シモン＝ボリバル→大コロンビア、ボリビア

サン＝マルティン→アルゼンチン、チリ、ペルー

グレイ

ベルギー憲法                      カニング

☆1830年代からヨーロッパ諸国で本格的に産業革命がスタート  
→労働者層（プロレタリアート）の出現、社会主義の隆盛  
→不安定な政情、ブルジョワジー独占の限界、自由と民主

### ③二月革命

七月王政…ブルジョワジーによる利益独占

共和派、社会主義者の不満（ ）の発生

首相（ ）「選挙権が欲しければ金持ちになればいい」

1848 パリ市民の蜂起、国王の退位→第二共和政の成立

二月革命の影響＝諸国民の春

→ベルリン三月革命、（ ）国民議会の招集

ドイツ統一の議論を進めるが、プロイセン国王（ ）  
が最終的にこれを拒否し弾圧

→ウィーン三月革命、メッテルニヒがイギリスに亡命

これを以てウィーン体制が崩壊したと表現する

→英 チャーティスト運動の隆盛、（ ）の独立運動

→伊 イタリア統一戦争、青年イタリアの蜂起、（ ）建国

☆オーストリアがウィーン体制に固執した理由を考えてみよう

ヒント…帝国の定義とは？？オーストリアの民族構成とは？？

→この他にもハンガリー、ポーランド、チェコなどで反乱多発